

阿弥陀岳北稜

2012年1月15日(日) 曇り

磯部S

美濃戸 (6:55) - 行者小屋 (8:50-9:15) - 第二岩稜基部 (10:55) - 阿弥陀頂上 (11:25-11:35) - 行者小屋 (12:10-12:30) - 美濃戸 (13:30)



行者小屋より赤岳方面



行者小屋より阿弥陀岳北稜遠望

深夜に美濃戸まで入る。この時期、四駆スタッドレス、予備にチェーンは必須だ。本来、このバリエーションルートはザイルが必要だが、あいにく急きょ計画決定したため単独となった。そのため核心 1 ピッチは巻いてフリーで踏破することとする。

文三郎道への分岐を中岳コルヘ向かうトレースに向かい、20~30mほどでまた別れ、右の樹林帯に向かっていく。

うっすらとした足跡があった。方角としてもまずは真西にやや登りながら進むはずで正しいはずだ。

すぐに小さな沢を渡りあがるとトレースは左に折れ、樹林帯の尾根を駆け登っていた。

若干のずれはあったとしても、いずれ上部で合流し、北稜につながるだろう。

出だしは急勾配で、ひざ上までの急ラッセルを黙々とこなす。



北稜上部と頂上



第二岩稜基部、いよいよ核心へ

樹林も低木層となり、だんだんと視界が開けてきてやがて北稜が見渡せてきた。
この軌跡で合ってるんだと少しほっとする。阿弥陀に直接突き上げていて、短いながらも雪と岩のミックスしたきれいな稜線だ。

勾配が急になってきて、ピッケルのピックをしっかりと刺し、アイゼンの前爪をきかせながらガシガシ登る。
ここをたぶん第1岩稜というのだろう。初心者がいればアンザイレンすべきかもしれないが、つかむ樹木もあり一般的には必要ない。

ひと段あがり、ふと振り向けば南八ヶ岳の絶景が見渡せすばらしい。

この景色は北稜ならではだろう。



赤岳、たくさん登っていました

じきに 5 m ほどの雪の付いていない大岩が迫ってきて、第 2 岩稜の基部にたどり着く。ここから一般的に 2 ピッチのクライミングとなるのだが、ソロのため左のルンゼを岩稜沿いに 10 m ほど巻いて、また尾根に戻る。急雪壁となり足場は崩れやすく、ラストわずか数メートルは入念にステップを造りながら稜線に乗り上げた。

ちなみにクライミングの場合、先端からは直上するため 3 級強、2, 3 m 左に巻いてから凹角をのぼれば 3 級くらいだ。

一息つく間もなくすぐにまた 4 m、3 級弱ほどの岩壁がある。2 ピッチ目となるところだが、なるほどフリーで十分だ。

さすがにオーバークローブは取り、薄いクライミンググローブに代え、ホールドの雪をていねいに払いながら安全第一でクリアする。

そこから 3 m ほどのナイフリッジを渡り、ひと登りして終了となる。核心はあっという間だった。当然人を待つこともなく休憩すれば寒い。感動を味わっている余裕もなく、ひたすら登り続けるだけだから速いはずだ。

ラストは普通にラッセルして頂上直下 10 m 程のところ赤岳から登る一般道に合流する。4, 5 人の登山者がいて写真をとってもらった。

中岳コルへの下りはけっこう急で、下部には前を向いて降りるにはぎりぎりくらいの箇所もある。予定コースは安全のため文三郎道だったが、しばらく降雪もなく雪質は安定していたため中岳沢をシラセードを加えながら楽しく下った。

あまりに早く終わってしまったため体力が余り、南沢前半部の安定したところは走ってしまった。喜びを分かち合う人がいないと楽しみはもう寒いしどれだけ速く下るかしかない。

美濃戸には 2 時前には着き、帰路につく。

帰りの中央道からの景色は抜群で、権現岳方面はもちろん角度的にかっこいい甲斐駒ヶ岳、続く鋸岳がとくにいい！

正面にはどーんと富士山が常にそびえ優雅だ。いつも暗いうちに通過していたところなので新鮮だった。

以上